

国労東海本部

第40回東海本部定期大会開催



国労東海

国鉄労働組合
東海エリア本部

東京都港区新橋5-15-5
交通ビル7階
発行責任者 植田 誠
編集責任者 植田 誠
教宣部長

植田委員長挨拶（要旨）

国労東海本部第40回定期大会にあたり東海本部執行部を代表してご挨拶申し上げます。

冒頭、司会者の木村副委員長のあいさつにもありました。皆さんで黙祷を捧げご冥福をお祈りした池田執行委員の急逝に触れ国労を背負って立つ人材であり東海本部としても私としても痛恨の極みであります。彼の姿がこの場あることが当然のように思っていました。それが無いことが非常に残念でありますし、何と言っても池田君自身が悔しい思いではないかと思えます。池田君の意思を引き継ぎ我々も国労に結集しそれぞれ奮闘をしていかなければなりません。

改めまして、第40回東海本部定期大会にご参集いただきました、構成員、傍聴者及び、関係する仲間の皆さん、大変お疲れさまです。

連日連夜の猛暑の中、仕事に励み、また、職場運動・地域運動に奮闘され、先頭に立ち頑張っておられる全ての組合員の皆さんに敬意を表します。

今大会での大きな課題の一つであります組織強化・拡大についてです。東海本部も組織対策会議を立ち上げ「各機関1名」の拡大を勝ち取ることを確認し取り組みを強化してきました。その結果、組合員の減少・分散化・高齢化により職場の活動が困難さを増す中においても、7月7日付けで、静岡地本で1名の拡大を果たしていただきました。引き続き、組織強化・拡大に向けた成果と課題を総括しながら、これからの国労を担う世代に運動・組織・財政を継承・発展させるため、一丸となって議論と意思統一を一層深め実践していくことを全組合員で確認したいと思います。

一方、多くの退職者を抱え大変厳しい状況となっているが事実です。いわゆるJR世代組合員の意見も参考にしながら、全ての組合員で今後の組織のあり方について議論を重ね、より良い組織、運動のしやすい組織にすることが重要になっています。

現場で働く労働者の労働条件改善、JRの安全・安定輸送を確立する取り組みの強化が求められます。

他のエリア・地方との連携強化も図っていかねばならないと考えています。

最後に、幾多の困難を乗り越えてきた国労。その国労運動を継承・発展させていくためにも、その困難を克服し、職場・分会運動を強化し、組織拡大の取り組みに総力を集める事を訴えて、ご挨拶いたします。

東海本部は8月7日、東京・大崎の南部労政会館で第40回東海本部拡大委員会を開催しました。冒頭、木村副委員長から開会のあいさつが行われ、急逝された池田執行委員に対する黙祷を全員で行い、議長に名古屋地本の脇田代議員を選出し、議事に入りました。

東海本部植田執行委員長のあいさつ 要旨を左欄に掲載。に続き、国労本部の佐藤副委員長から来賓あいさつを受けた後、高木業務部長から協約・協定の締結承認、渡邊書記長から経過報告と当面する運動方針案が提起され、議論に入りました。

運動方針案を提起する 渡邊書記長



がん保険の枠を超え、一人ひとりに最適な安心を

保障と相談サポートで

あなたによりそう
がん保険
ミライト

No.1 アフラック
がん保険
契約件数
（他社のがん保険と比べてアフラックが2024年3月時点）



（募集代理店）アフラックは代理店制度を採用しています

アヘニール株式会社
〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3階
Tel.03-3437-6810

（引受保険会社）

「生きる」を創る。アフラック
法人第二営業部
〒163-0456 東京都西新橋2-1-1 新宿三井ビル20階
Tel.03-6335-9829

書記長集約

☆組織強化拡大

東海本部は第39回定期大会以降JR関連会社で働く仲間2名が勇気をもって国労に加入してくれました。会社は違えど日ごろの世話役活動の成果の表れだと感じます。

まずは、組織の拡大に奮闘していただいた名古屋地本・静岡地本の皆さんに感謝いたします。今回の拡大の流れを、個性のものにするのではなく東海本部エリアに結集する組合員が共有し次の組織拡大に繋げていっていただければと考えます。この間、ホームページを活用し国労運動が見えるように広げてまいりました。賃金アンケートや要求集約をネットで行えるように試行錯誤しながら取り組んできています。職場における掲示板は組合員人数の減少により撤去が進んでいますがホームページや情報発信アプリ、ツナグを活用し時代に合わせた取り組みを引き続き進めてまいりたいと思います。各地方では組織人員の減少に伴い機関運営が大変厳しくなってきたと思います。東海本部として、現状を見据え地方の声を聴きながら地方本部の再編等を含め議論をしていきたいと考えています。

☆労働条件改善、安全、安心な鉄道

・公共交通を守る闘いについて

次に労働条件改善、安全・公共交通を守る闘いがあります。現在JR各社では人口減少・少子化を想定し、各職場では機械化・システム化による効率化がコロナ禍を経て急速に進んでいます。JR東海では、今年6月より静岡地区にてお客様サポートシステムの運用が開始されました。サポートシステム導入により始発から終電まで今まできつぷの購入ができな

かったものが購入できるとし、利便性は向上していると会社は述べています。利用客や自治体からの意見もなく問題なく推移していると述べていますが実際はどうでしょうか。確かに終日近距離きつぷの購入は出来るようになりますが、割引切符や長距離きつぷは、一部駅の指定席券売機や窓口で購入しなくてはならなくなり、ICカードへのチャージでは障害が発生し起点駅から電車で向かい対応するなど今まで以上にお客様をお待たせしているのが現状です。

☆地方ローカル線問題について

地方のローカル線問題や並行在来線問題などについては自身身学習を強化し利用者の生活の足を守ることや地域の活性化、労働者の職場を守ること、労働者の雇用を守ることなど、様々な課題に対して取り組んでまいりたいと思っています。交通弱者、誰もが平等に移動する権利については何としても死守しなければならぬと考えています。

☆26春闘について

3点目に26春闘についてですが、東海道新幹線・在来線ともに利用者が戻ってきたことにより第1四半期決算は増収・増益の決算となっています。社員の努力に報いるために、しっかりと社員に還元させるように主張をしていかなければならないと思っています。26春闘においては4年連続のベア獲得、期末手当の満額回答、併せて労働条件改善に向け奮闘していかなければなりません。26春闘の闘い方については来年の中央委員会での方針が決定次第東海本部委員会でも提案していきたいと考えています。

職場・地域から引き続き全力で組織の総力を挙げて、闘勝利！組織強化・拡大に向け奮闘しましょう！！

2026春

代議員の発言（要旨・抜粋）

＊新幹線通勤による遠距離通勤の弊害問題や業務研究過多・超過勤務過多による本来業務への悪影響などが職場で蔓延している。解消に向け強く交渉してほしい。

＊駅関係での外国人対応が急務であり、早急に対応を会社求めてほしい。お客様サポートシステムも導入して終わりではなく、システムプラス要員を配置し更なるサービス・安全確保を行うことを会社に求めるべきである。

＊お客様サポートシステムはお客様にとって負担がありあまり良いサービスとは思っていない。より良いサービスをモットーとすべきと考える。

＊静岡貨物会社で組織拡大を勝ち取った。新しい発想で運動を展開し加入して貰ったからには一緒に頑張る。後ろ向きな話が多いように思えるが前を向いて頑張っていきたい。

＊職場では休日買い上げが常態化している。原因の一つは育休取得である。育休制度自体はとも良い制度だと思いが、育休で休んだ社員の補充が無く休日買い上げになっており、育休時における要員補充を強く求めている。



＊退職による組織減に伴う組織の在り方については運動・組織・財政など多方面からの議論・検証を行い、今後の展望を全体で議論する必要がある。

